

ヤップ島の青少年が荒川を見学されました。

平成25年3月21日（木）に、NPO法人エコプラスが主催する「ヤップ島青少年招へい事業」の一環で、青少年らが荒川下流河川事務所を訪問されました。

ヤップ島は、ミクロネシア連邦ヤップ州にあり、太平洋の島々の中でも最も伝統を色濃く残すとされ、石のお金が今でも使われる島として知られています。

来庁にあたり、職員が玄関でミクロネシア連邦の国旗を振り、ミクロネシア連邦国歌を流して歓迎いたしました。



波多野事務所長による歓迎の挨拶



来庁の様子

視察では、庁舎の屋上から荒川放水路や水門、堤防などを見学してもらいました。目の前の大河が約80年前に開削した人工放水路であることを知り、驚いている様子でした。



総合管理棟屋上からの見学



総合管理棟屋上からの見学

続いて、河川防災の前線基地となる「災害対策室」を見学してもらい、設備や機能、防災対策の重要性について見学・勉強してもらいました。

大画面に写された種々の情報、設備に関心していた様子でした。

その後、荒川知水資料館に移動し、荒川の概要、放水路建設の経緯、放水路建設後の発展と地盤沈下、水質をはじめとする河川環境の悪化について、展示物を見ながら学習してもらいました。

都市や生活の発展とその代償を知り、ヤップ島の環境変化について思いを重ねていたように伺えました。



災害対策室の見学



荒川知水資料館での学習

最後に、荒川河川敷に出て水質調査を体験してもらいました。透視度計を用い、水道水と荒川河川水との比較しました。

水質は透明度の他にも様々な指標があること、一度汚れてしまった川をきれいにするには非常に大変であること、川と生活は密接につながっていることを伝えました。

自然と共存しながら豊かに暮らすために、ヤップ島で何ができるのか、考えて欲しいと伝えると、皆さん真剣にうなずいておりました。



透視度計による水質調査の様子



最後は記念撮影